



Interview



国体冬季大会スキー競技会  
ジャイアントスラローム競技  
コース係長

ひら た りょうご  
**平田 令吾さん**

飛驒ほおのき平スキー  
場のゲレンデメークス  
タッフ。今回の国体で  
は、初めてコース責任  
者として臨みます。

丹生川町法力(29歳)

受け入れ側になれて幸せ、やれるだけのことはやる

「全ての選手が全力を出せる、最高の滑りができるゲレンデを作る」

人工降雪機の噴出口の向きをあやつる平田令吾さん。冷え切った漆黒のゲレンデに、鋭い眼差しが光ります。

同スキー場の大会コースは、全長1207m、標高差289m、最大斜度約40%を有する県内屈指のもの。平成15年には全国高等学校スキー大会、平成21年には全国中学校スキー大会が開催され、国内トップクラスのスキー大会が開催可能なほか、平成22年にはFIS(国際スキー連盟)の公認コースにもなりました。

ふ清流国体スキー競技会のジャイアントスラローム(大回転)競技の舞台となる飛驒ほおのき平スキー場で、ゲレンデメークに携わるスタッフは10人。人工降雪機による雪づくり

と、圧雪車による整備が主な作業内容です。

雪づくりを担当して9年目の平田さんは、今回の国体で、初めて責任者であるコース係長に抜擢されました。

「今まで雪づくりに携わってきたが、責任者として臨むのは初めて。身が引き締まる思い」と意気込みます。

雪

雪づくりに必要な条件は、気温と湿度です。マイナス2℃以下で適した湿度の時、人工降雪機に水と高圧の空気を送り込み、霧状にしてコースに積もらせていきます。平田さんらスタッフは、長年の経験から、刻々と変わる気温と湿度を考慮して、風向きを敏感にとらえ、競技に最適な雪をコースへ確実に定着させます。

「寝ていられませんか。気温と湿度と風向きと常ににらめっこしながらですか」と、人工降雪機の水量を調節しながら

ら平田さんは語りました。

コースの中でも、雪づくりが最も困難な場所は、最大斜度がある部分だと言います。急斜面であるがゆえ、人工降雪機がひっくり返らないように、細心の注意を払うとのことでした。

平田さんは「このコースの一番の見所です」と言いつつも、

「整備側にとっても選手側にとっても難所です」と苦笑いしながら語りました。

国

体には選手としての出場経験もある平田さん。過去に3回、クロスカントリーの岐阜県選手として活躍しました。

「今年の国体は選手を受け入れる立場。責任は重大だが、正直幸せなことだと思ってる。やれることを全てやりとげたい」と熱く語り、最後に、「だって楽しみですから」と微笑みました。

選

手としてかつて挑んだ時の熱い心は、今、大会を支える熱い心となつて、今夜もコース整備に挑んでいます。国体に向けて、平田さんらゲレンデメークスタッフの熱い戦いはまだまだ続きます。



平田さん(写真中)とスタッフのみなさんに、国体への抱負を書いてもらいました